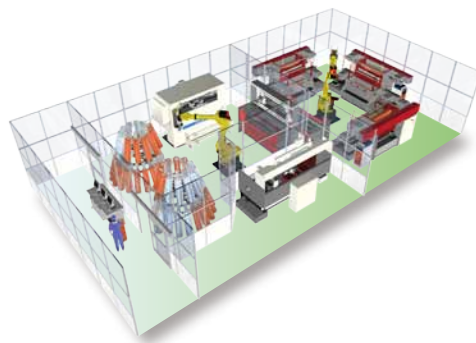




最新鋭のレーザーグラビア製版システム「New FX2」が中国（上海）で本格稼働開始

シンク・ラボラトリーは、世界最大規模のグラビア製版企業グループである運城製版の中心拠点の1つである上海運城製版有限公司に、最新鋭の自動レーザーグラビア製版システム「New FX2」の一号機を納入し、8月には本格稼働を開始致します。

運城製版グループでは、中国国内50箇所、海外で40箇所に工場があり、そのうち上海第一を皮切りに、東莞、上海第二の3拠点で順次NewFX2を導入します。第一段階でグループ全体として10ラインをアジア圏に導入予定で、増大するグラビア製版需要に対応していきます。



中国では、PM2.5をはじめとする大気汚染問題を抱え、環境改善が急務となっており、大量の有機溶剤を使用するグラビア印刷でも使用量の改善効果が見込める領域です。当社が提案する浅版化技術「Fx-eco版」と、インキメーカー各社が提供するハイソリッドインキを組合せることで、印刷時のインキ使用量をおよそ25%程度削減できることが実証されています。また、人件費の高騰も課題で、ロボットによる自動化、夜間無人運転による省力化効果も見込んでいます。

レーザーグラビア製版システム「New FX2」をUFLEX社（インド）が6セット受注

シンク・ラボラトリーは、インドで最大規模のグラビアコンバーター、UFLEXグループの傘下であるAFFLATUS社を含む各地域の工場に「New FX2」を6セット受注しました。

2015年7月以降、インドから中東はアラブ首長国連邦のドバイに至るまで幅広いエリアに納入予定です。インドでは軟包装パッケージの需要拡大が目覚ましく、生産性の高いグラビア製版装置のニーズが一致したことが受注に繋がっています。

レーザーグラビア製版システム「New FX2」について

新開発の「New FX2」は、2011年に販売を開始した従来型「New FX」シリーズで確立した省スペースレイアウト構成を踏襲しながら、競合他社の製版システムを凌ぐ高品質化、高い生産性を実現しています。ユニットは、一体構造を採用して更なるコンパクト化と、銅めっき、クロムめっきの高速化、高品質化を同時に行うことで、日産生産本数80本をより安定した品質で生産可能となっています。

シンク・ラボラトリーについて

1966年創業以来、グラビア製版装置の自動化と効率化、環境配慮と高品質化で業界をリードしています。ダイレクトグラビア、システム77、ブーメランシステム、レーザーストリーム、New FXなどの製品群は一貫して労働環境と生産性の改善に寄与する製版システムとして世界的な評価を得ています。